

井坂健一郎展 “空に結ばれる”^{くう}——銀座かわうそ画廊(京橋)

現代アートの“地平”を切り開く



言景色 KU-U 35.5×53.5cm
デジタルプリント(アクリルマウント加工)



言景色 Hi-Fu-Mi 24×33cm
アクリルガッシュ、パステル、紙



Koo -1601 90×59.8cm デジタルプリント(アクリルマウント加工)

井坂健一郎展 “空に結ばれる”^{くう}

会期 — 11月3日(木・祝)～10日(木) 9日(水) 休廊
12～19時(最終日は16時まで)

会場 — 銀座かわうそ画廊
東京都中央区京橋3-6-21 十合ビル3階
☎03(3535)3931



いさか・けんいちろう

1966年愛知県生まれ。東京藝術大学油画専攻、筑波大学大学院修士課程及び博士課程に学ぶ。銀座三越、山梨県立美術館での個展をはじめ国内外での発表多数。2010年大木記念美術作家助成基金授与。現在、国立大学法人山梨大学大学院教授。

2003年以降、虚実が混在した写真作品を発表してきた井坂健一郎。昨年同画廊の個展では、白い紙にさまざまな光を当てた「Transience」シリーズで、紙の虚像と実像が生み出す日常に潜む「はかなさ」を映し出した。

今展で見せる新作シリーズ「Koo」は、虚実混在を描き出すだけでなく、見る人が「空」の領域に入り込むような、あるいは吸い込まれるような虚像と実像が交錯する世界を投影する。被写体は紙で造形されたごくシンプルなどこか身体的で日常見かけたことのある造形にもかかわらず、「空に結ばれる」ともいうべき無限の空間と一体化される感覚が広がっているから不思議だ。

今展には神代文字の一つともされる「阿比留草文字」(あひるくさもじ)を使った写真とドローイングの別シリーズも出品。造形物としても感じられる神代文字を、独自の撮影方法で表現。文字を立体的に組み合わせた作品などで、「空に結ばれる」感覚にも通じる井坂独自の世界を展開する。